



【あなたは今何を感謝していますか。】



聖書本文:テサロニケ人への手紙第一 5:18 /暗唱聖句:ピリピ人へ手紙 4:6

“すべてのことについて、感謝しなさい。これが、キリストイエスにあって神があなたがたに望んでおられることです。”

説教者:鄭南哲牧師

< 感謝の人、三浦綾子 >

みなさんは三浦綾子さんをご存知ですか。日本のとって有名なクリスチャン小説作家の一人です。彼女は人々から‘動いている総合病院’だと言われました。綾子さんは肺結核(はいけっかく)にかかり人生の黄金期である24歳からねったきりの13年間ベット生活の日々でした。これだけではなく直腸癌(ちよくちょうがん)、パーキンソン病、脊椎(せきつい)カリエスなどの病は次々と彼女の体を苦しませました。そんな彼女に一筋の光として照らされたのがご主人になった方を通して知った‘絶対者である神様への信仰’でした。綾子さんは信仰を持ってから、どんなに絶望の状況においても希望を失わなかったのです。その状況の中で、人間の原罪(つまり生まれながらの罪)と神様の愛について関心をもって書いた作品がある新聞社の小説公募に当選されました。彼女が42歳の時でした。彼女は一躍日本最高の作家として名を立てるようになりました。その作品があ有名な‘氷点’です。綾子さんは天に召される直前この話を残しました。“病を通して私が失ったのは健康だけでした。しかしそのかわり‘信仰’と‘いのち’を得る事ができました。”

愛する信仰の家族のみなさん! みなさんは蒸し暑かった先週一週間、そして最近この暑い夏の時を振り返ってみると神様の御前でどれだけ感謝の告白と感謝の生活を保って来ているのでしょうか。三浦綾子さんは病のためむしろ神様に感謝しました。彼女は苦難のためもっと感謝しました。自分に失ったことより得た事を覚えて感謝しました。そんな三浦綾子さんは召される前にこのような遺言を残しました。“人が人生を閉じた後残されるのは‘積んでおいた業績’ではなく‘ともに分ち合った事’だ。”

先週水曜日夜祈り会の時に我々は先取りの感謝の大切さ(歴代誌第二 20章 1-23節)を学ばされました。つまり、人はいつも感謝の結果を見てから感謝しようとする!しかし、それは別に信仰がなくても出来る事です!しかし、信仰を持っている人の特権は共におられる全能の神様を信じて、先取って感謝することによってその通り、いやはるかに超える感謝の結果をもたらすことができることでした!聖書をよく読んで見ますと、この世に来られた神の御子イエス様はいつも結果を見てから信じ、感謝されたのではなく、いつも結果が起こされる前に感謝の祈りを捧げられたお方であることをもう一度心にとめておきたいと思います。

最近私たちは感謝の言葉、感謝の心を保っていますか。何を感謝していますか。感謝できない時感謝する事はともかく、感謝する状況におかれているにも感謝をせず、感謝を忘れて生きる時がどれほど多いのか分かりません。どうすれば綾子さんのように感謝の生涯を送ることができるのでしょうか。彼女のようにどうしても感謝できない状況においても、そんな状況でさえも感謝のあふれる生涯を送ることができるのでしょうか。蒸し暑くて、なかなか感謝しづらいこの季節に、今日の御言葉を通してもう一度感謝の基本から確かめる時を持ちたいと思います。

< 本文 >

今日の聖書本文は短いですがもっとも有名な感謝の生活を強調する代表的御言葉です。神様は使徒パウロをとおして信仰の生活をはじめ間もないうちに様々な試練と苦難にあっているテサロニケ教会の信徒たちを励ますためにこの手紙を送りました。短い御言葉ですが、この中には特に感謝について大きな3つの内容が含まれています。つまり、**感謝の理由と感謝の内容と感謝の方法**についてです。

はじめに私たちはなぜ感謝しなければならないのですか。それは“感謝しなさい”という神様の命令だからです。(感謝の理由)

まずは今日の箇所注目すべきところは“感謝しなさい”という命令形が使われていることです。

“殺してはならない、姦淫をしてはならない”これも神様からの命令であるように“すべての事について感謝しなさい”これも等しい神様からの命令である事実をふかく考えた事があるでしょうか。命令は選択を求めません。感謝してもいいし、しなくてもいいようなものではなく必ず、感謝しなければならないとの神様からの命令なのです。ですから私たちは日々感謝しなければなりません。

この御言葉では感謝の状況見てからとか、感謝の事が与えられたらではありません。“すべての事について”ここには感謝できる時だけを覚えて感謝することではありません。結果次第による意味ではありません。感謝の内容、感謝の結果がまだ見えない時でも、到底感謝ができない時でさえも含まれているのです。愛するみなさん、もちろん、我々はそれが神様の命令であつてもなか

なか感謝するのができないとよく言います。

感謝することがあんまり最近は全然ないと言うかも知れません。しかし、ここで“すべての事に感謝しなさい！”という御言葉の命令には明日また失敗しても、今日、今主の御前でまた感謝することを決断し、そう従順しますという決心が必要です。そうして意図的に言葉でも、心構えでも、自分にちゃんとなれて身に着けられるように自分の意志をもって訓練して行くべきものです。

なぜ神様はこう命令されたのでしょうか。わずかは一つでも、当たり前だと思っている事でも感謝して行けば、それがどれほど感謝であるかやと分かるようになるからです。感謝ができない時さえ感謝するば、その感謝の通り感謝がその人を変えさせからです。神様は一人一人がまさに神様からの感謝の力と感謝の祝福を経験し、味わってほしいからこそこの命令を我々にされたわけです。感謝する生活こそ神様が私たちに一番期待される生き方であり、一人一人がどんな状況や問題にかかわっていても感謝に満ちた人生を送るのを望んでおられるお方です。

ですから、本当に感謝する生活を送るためには感情に左右される生活をしてはいけません。ただ自分が感じたことや感情のままそれをすべて事実のように受け止めてしまうと感謝できない条件がなかなか見つからず、感謝がなかなか難しくなります。

実際、人は生まれてからの一つ悪い癖があります。それは日々の生活において自分が得たこと、与えられている事より失ったことや持っていない事にさきに、大きく考えかちで、感謝より不平と不満ばかり並べ立てることにもっと慣れていることです。なので、ある意味で、感謝ができないというのは正しい表現ではありません。実際に感謝に自分があまりなれてないということがもっと正しいと思います。今まで感謝の言葉や表現、行動などをあまりしなかったため感謝を持って感謝を表すこと自体がむしろ不手際(ふてぎわ)な方はいませんか。

中世ある修道士が修道院で弟子たちを教えながら書いておいたノートが発見されましたがそのノートにはこのような印象的な文章が記録されていました。“**牢と修道院の違い**”というタイトルです。“**牢と修道院は環境的にはとっても似ているかも知らない。しかし何によって牢を地獄のようになるか、修道院を天国のようになるか。それは牢では一日が不平、不満で始まる反面、修道院の一日は感謝から始まるからである。**”とっても簡単ですがこの不平不満と感謝、これによって牢が地獄に、修道院が天国になる理由だったのです。修道士の文章はまた続けます。“**しかしもし修道院で生活している我々が感謝を失ってしまうとこの修道院も地獄のようになることは当然だ。逆にいくら牢であっても感謝をすることができるなら牢の中にも天国のようになれる。**”

最近みなさんはどうでしょうか。毎朝、一日の始まりを感謝の心、感謝の言葉を持って始まっていますか。みなさんの家庭には感謝がありますか。自分自身、自分の夫、自分の妻、自分の子供、自分の職場、私たちの教会を見ながら神様に感謝していますか。今日の御言葉を逆に考えて見ると、感謝のない人生は神様の子供として味わえる神様の恵みと豊かさを味わえることが決して難しいということがわかります。“**すべての事について、感謝しなさい。これが、キリストイエスにあって神があなたがたに望んでおられることです。**”アメンですか。はい。アメンです！これがいま神様のみなさんへの願いなのです。悲しみ、辛い、苦しい、寂しいこの世でも旅路のような人生の中でも、天国を経験して歩みたいと望むみなさん！もう一度すべての事に感謝して行きましょう！

二つ目に、次は感謝の内容についてともに考えてみましょう。(感謝の内容)

みなさん! この世で生きていると不愉快(ふゆかい)なことも経験し、願わなかった環境にあう時もあり、苦しいことを経験する時もあります。しかし聖書はそれらのことについても感謝しなさいと語っています。特に、今日の聖書の本文が書かれた当時、テサロニケ教会の信徒たちがパウロからこの手紙を受け取った時は、彼らは艱難の真ん中に置かれていました。そういうわけでこの第一テサロニケ人への手紙にはよく艱難や苦難という単語が頻繁に使われています。

“**多くの苦難の中で(第一テサロニケ 1:6)**”, “**はげしい苦闘の中でも(2:2)**”, “**あなたがたも一苦しめられたのです。(2:14)**”, “**あらゆる苦しみと艱難のうちにも(3:7)**”などの箇所をとおして私たちはテサロニケ教会が受けている苦しみかどのぐらいだったのかすこしでも推し量る事ができます。しかしそれにもかかわらず神様は使徒パウロを通して苦難の中にあるテサロニケ教会のクリスチャンたちに“**みなさん、今みなさんがおかれているすべての苦難の環境においても感謝してください。**”と送らせるようにされました。

愛するみなさん！これはどうやって可能になるのでしょうか。しかし、これは信仰を持っている者たちには確かに可能なことです。どうやってですか。すべてのことについて神様のご計画があるという事実を信じ受け入れるなら私たちはどんな状況においても感謝する事ができます。私たちはイエスキリストを信じる人々の生涯を盲目的な偶然で説明しようとしてはいけません。そして私たちの人生を変えられない運命的に説明しようとする誘惑も拒まなければなりません。すくなくとも、私たちのすべての生涯は神様の

御手におかれています。言いかえりますと、私たちのあらゆる人生は神様のご計画にあるということです。この事実をみなさんは信じますか。全知全能の父なる神様がみなさんの人生を究極的に良いものとして変えてくださる事を信じますか。いますぐにはみなさんがおかれている環境が苦しみが続いたり、悩みで、不幸で、疲れ果てている状態であっても先立って行かれる神様がやがてこれらのすべてが組み合わせられて我々にとってかならず益となるようにして下さることを信じて下さい。

使徒パウロには彼の一生誰どんな時でも忘れず握っていた信仰の告白がありました。それがローマ人への手紙 8 章 28 節の御言葉です。“神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくださることを、わたしたちは知っています。”そうです。どうしても望ましくない最近の状況、けっして喜べない苦しみの瞬間、けっして感謝ができないいたみと傷にもかかわらず自分の身の回りに起きているすべては働いてかならず神のみこころのままなされ、かならず自分に益となるようにして下さるという信仰がある時ようやく私たちはどんな場合にも感謝する事ができるのです。

例)全世界の人々に感動を与えた人であるオランダのクリスチャンコリテンブームという女の方(Corrie Ten Boom:1892-1983)がいました。彼女と家族は第二の世界戦争中ドイツ軍のナチからきわめて激しい迫害を受けていたユダヤ人を隠してあげたせいで彼女と全家族が恐ろしい収容所(しゅうようしょ)に入れられてしまいました。

コリさんにはベシというお姉さんがいましたが、そのお姉さんはとても立派な信仰の人だったそうです。コリさんは自分のお姉さんを通して信仰を学び、人生を学んだそうです。姉ベシは自分の環境がどうであれいつも感謝する“感謝の人”であり、その感謝のため生き残ることができたと証しました。ある日、今の収容所の中でも悪質だと知られているドイツのラベンソンプルクに移送(いそう)されるうわさが伝わってきました。これを聞いた人々は絶望となみだの叫びでしたが姉ベシはひざまずいて祈りを捧げ始めます。“神様、私たちのためにラベンソンプルク収容所で何を準備されたのでしょうか。先のことは分からないんですが、感謝します！”結局何日後寒い冬にラベンソンプルク収容所の方にコリさんの家族はみんな移送されてしまいました。その収容所はとっても狭い牢の中に人々はうようよ、うじゃうじゃ集まっています。環境はますます悪化されているように見えました。ところが、コリの姉ベシはその狭い牢の部屋の中でも神様に具体的に感謝をささげました。“神様、さむいこの冬、こんなに大勢の人々が集まるともにいられるあたたかい所を与えてくださって感謝します。そして、こんな状況の中でも 愛を分かち合い、福音を伝える隣人をこんなにたくさん与えてくださって感謝します。”

しばらくの日が立つと、その牢には蚤(のみ)がたくさんいて体全体がかゆくて人々はいらいらしているのに、その週間でもベシは感謝の祈りをささげるのです。“神様! こののみをも感謝します。”これを見ていたコリはもう我慢できず姉ベシに怒りながら“お姉ちゃんは今もう頭が狂っているのではない。信じられないわ。どうしてのみのことまで感謝するの?”

コリさんはそんな時もベシ姉からのかえされた言葉をなまなましく覚えていました。ベシはこう言ったそうです。“私ははっきりした理由は知らないけど、神様を信じている人の人生には決して一つも偶然なことはないのよ。すべての事にはかならず神様の計画があるなら、のみを与えてくださったのにもきっと神様の何かの計画があるのではないかな。”と。その時はコリも姉のベシも知らなかったことですが、後になってはのみさえも神様に感謝すべきだったことが分かったとコリさんは回想(かいそう)しました。実はコリさんの家族が入れられていた牢の部屋にはほかの部屋よりののみが多くてそのためドイツの看守たちがあまり近づきたがらなかったそうです。そういうわけで大変な収容所での生活でしたが、少なくともそののみが多かったその部屋の人々の命が守られ、みんな生き残ることができました。それだけではなく、耐え難い収容所の生活の中でも多くの人々が姉ベシの信仰によってイエスキリストに導かれ信じ、信仰の共同体が作られ、収容所の中でも賛美と礼拝を自由にささげられて感謝と喜びに満ちた日々だったそうです。コリさんは若い時このラベンソンプルク収容所での生活を回想しながらその時、姉であるベシを通して誠の信仰の生き方と感謝の力を学んだと告白しました。

愛するクリスチャンレイズチャーチの信仰のみなさん!今日私たちがかかわっている問題や苦しみにかならず何かの神様の計画があると信じていますか。イエスキリストを本当に信じているクリスチャンの一生には偶然はありません。変わらない運命もありません。私たちに對する神様の主権と力そして、その方のご計画を信じるなら、すずめ一羽(わ)さえもその方の許可なしには地に落ちることがないことをも信じて下さい。ある時、みなさんに起こっているすべてが理解できなくても、それらのすべても神様の御手の中にあり、ご計画のとおりになされ、かならずすべてを益となるようにして下さる事を信じてください。それを信じる方は今、そして常に神様の御前で大胆に立てこのように告白してください。“神様、すべての事を感謝します。”

三番目、それではどうやって神様に感謝するべきでしょうか。最後に(感謝の方法)について考えてみたいと思います。

結論から言わせると今日の聖書からはキリストにあって人生のすべてのことを見るべきだと教えています。

“すべての事について、感謝しなさい。これがキリストイエスにあって、神があなたがたに望んでおられることです。”

言い換えると私たちはキリストイエスにあってこそすべてのことについて感謝する事ができるということです。

愛する信仰の家族のみなさん！自分の人生を見る視覚には二つの方法があると思います。一つは環境を通して自分の人生をみる視覚です。しかしこれはけっして正しい視覚ではありません。なぜなら私たちに与えられている状況といつもかわりやすい環境を通して自分を見るともどかさしか感じられません。‘あ！本当にこんな状況だとこのまま人生が終わってしまうのか。’という悲しいなげきもあるでしょう。よく変わる環境を通して人生を見ると、生きるのがむなく、どうすればいいのか、どちにあわせればいいのか迷ってしまいやすいし、それによって生きる意味すらわからなくなってしまいうケースもあるでしょう。お金をたくさん持っていて、高い地位についている人々でさえも結局、環境を通して自分の存在感と価値を評価しようとする人々はそれを失い、環境が違って来ると、変わる自分の身分のため我慢できず、悲惨な結果を招いてしまう場合を私たちはしばしば見て来ている。しかし、みなさんキリストイエスにあって人生を見る時こそ以前とは違うようになります。これが二つめの視覚です。

愛するみなさん！イエスキリストにあって自分の人生と見たことがありますか。そのように見えていますか。使徒パウロを通して書かれた聖書の中できつとよく使われた表現があればそれは“キリストイエスにあって”だと思います。みなさんもよくご存知の聖書箇所ですが、ピリピ人への手紙 4:6-7 で使徒パウロは私たちに“何も思い煩わないであらゆる場合に、感謝をもってささげる祈りと願いによって、願い事を神に知っていただきなさいとすすめます。そうすれば、人のすべての考えにまさる神の平安がキリストイエスにあって私たちの心と思いを守ってくださる”と約束しています。

使徒パウロはイエスキリストを通して罪の赦しを経験し、キリストイエスにある救いと愛と恵みを見つけてから自分の人生が変わられた事を先に経験しました。キリストイエスにあって彼は新しい人生を見出し、人生の新しい目標と進むべき人生の方向を見つけることができました。それで使徒パウロは第二コリント人への手紙 5:17 節でこのように告白します。“だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ。すべてが新しくなりました。”

私たちのどんな絶望や挫折の状況においてもキリストイエスにあって神様が希望を与え、日々私たちを守り導いてくださるという確信があるため、むしろ私たちは主にあって感謝をもってすべてのことを肯定的に考え、受け入れ、克服することができるのです。環境はいくらでもかわるものです。天地が変わるでしょう。自分のまわりの人々も変わってる時もあります。しかしイエスを信じ、頼るクリスチャンたちに一生変わらない事実があります。それは“キリストイエスにあって”その方の真実と愛、恵みは変わりがありません。ここに集っている私とみなさんはこのようにすべての環境をキリストイエスにあって見ているのでしょうか。これがまさに信仰の視覚であり、すべてのことに感謝ができる近道の方法なのです。

メッセージを終わらせます。

今日も御言葉を言い換えるある方が言われたようにこう言えるでしょう。

“感謝祭のときだけ感謝する者よ。万事に常に感謝せよ。危機の時だけ祈る者よ。たえず祈りなさい。喜びのときだけ喜ぶ者よ。いつも喜びなさい。”

まだ蒸し暑い日が続くと思いますが、感謝しづらいこの8月にみなさんの心に、口に、家庭に、職場に、教会に感謝が満ち溢れる今月となり、さらに感謝が溢れる祝福されたみなさんの人生となりますように切にお祈り申し上げます。毎日感謝のことを思い出して見て下さい。感謝の事を毎日5つ書いて見ましょう。わざと感謝します！と言う言葉をよく使いましょ。これからのみなさんの人生がかならず素晴らしく変わっていきます。さらに感謝の溢れた人生になると信じます。神様の約束ですから。

“主よ、感謝します。私の一生涯、主の喜びとなるようにしてください。主にあって神様が許して下さった自分の存在、今の人生に感謝し、与えられたすべてのことにこれからも感謝して行きます。助けて下さい。”イエスキリストの御名によって祈ります。
アーメン！”